

第3分科会

【演 題 等】「京都市の不登校児童生徒支援の取組」

～教育メタバースを活用した居場所と校内サポートルームの進捗～

【講演・発表者】京都市教育委員会指導部 生徒指導課 首席指導主事 水野 博之
副主任指導主事 赤井 範子
担当係長 藤元 剛史

【座長・司会】片山 紀子（関西地区研究会副会長）

・発表概要

- 1 京都市の不登校児童生徒支援への支援施策
 - ・不登校児童生徒の増加
 - ・不登校児童生徒への支援施策
 - 学校における取組
校内委員会「登校支援委員会」（生徒指導委員会）常設、アセスメントシートの活用、クラスマネージメントシート、校内サポートルームの整備
 - 相談窓口 京都市教育相談総合センター（パトナ）
 - 多様な学びの機会確保
ふれあいの杜、学びの多様化学校（洛風中学校・洛友中学校）、メタバースを活用した支援、フリースクール連携事業・情報提供、京都奏和高校
- 2 教育メタバースを活用した「オンラインの居場所」
- 3 京都市の校内サポートルームについて～中学校を中心に～

・発表要旨

- 1 京都市のあらましと教育理念
 - (1) 京都市の人口 143 万人。地価の高騰により若い世代が住みにくくなっており、児童生徒数減少し統廃合が行われている。
 - (2) 京都市は南北に広がり、児童生徒の実態、問題行動数等は地域により格差がみられるが、不登校においてはそのような傾向はみられない。
- 2 不登校の状況と基本方針
 - (1) 不登校児童生徒の増加。教育機会確保法が施行され、不登校に対する社会や保護者の意識も変化。特にコロナ禍以降 急増。
 - (2) 専門性を活かしたアセスメントに基づく支援の必要性
昭和 38 年 故河合隼雄氏の指導によりスタート。京都市カウンセリングセンター
平成 15 年 京都市教育相談総合センター設置
 - (3) 安心して学べる環境整備
平成 16 年度 洛風中学校開校
平成 27 年度 スクールカウンセラーの全校配置 SC 年間 280 時間 令和元年度 SSW 配置
ふれあいの杜
令和 5 年度 校内サポートルーム（校内 SR）設置推進
令和 6 年度 オンラインの居場所
 - (4) 学校における取組
 - ・校内委員会「登校支援委員会」（生徒指導委員会）の常設
 - ・アセスメントシートの活用
 - ・クラスマネージメントシート 一人一人の状況把握 いじめや不登校の予兆 家庭での居場所など把握

- ・心の居場所づくりハンドブック
- ・校内サポートルームの整備

(5) 支援の施策

- ・相談窓口として、教育相談支援センター（パトナ）
- ・ふれあいの杜（教育支援センター）
不登校児童生徒の増加で、令和6年度からサテライト学習室を3カ所増設
- ・学びの多様化学校（洛風中学校・洛友中学校） 京都奏和高校
- ・メタバースを活用した支援
- ・フリースクール連携事業・情報提供

3 教育メタバースを活用した「オンラインの居場所」

- (1) 不登校児童生徒が続けやすいオンライン学習の在り方、児童生徒が継続して参加できる内容の研究
- (2) 令和6年度の施行実施に向けて
実施準備 参加対象者への事前説明 先行実施 実証研究
- (3) 令和6年度「オンラインの居場所」概要
毎週水曜日の開講 月別の学習テーマ オンライン学習とリアルな体験への接続
保護者支援（保護者セミナーの実施）
- (4) 「オンラインの居場所」の特徴
コミュニケーションの広がり 対面の会話が苦手→チャットなら交流できる顔を出すのが
恥ずかしい→カメラオフのまま参加できる
- (5) 令和7年度の本格実施への課題
参加者数の増加への対応（開講回数で対応） 出欠状況の学校との即時共有
利用状況（参加率64%）
- (6) 校内サポートルームとの連携（新規利用者・継続利用者の事例）

4 京都市の校内SR（サポートルーム）について～中学校を中心に～

- (1) 校内SRとは
児童生徒が校内で安心して過ごすことができる居場所
- (2) 子ども支援コーディネーターと効果
不登校・不登校の兆候が見られる児童生徒への支援
子ども達の安心感につながる存在
- (3) 校内SR開設時の難しさ
教職員の必要性の共通理解 資源（人・もの・金）
教員が空き時間に担当するが働き方改革との関係
- (4) 校内SRの運営
校内SRに生徒・保護者をつなぐシステム 校内SRにあらゆる人をつなぐシステム
- (5) 校内SRの実践例
あしあとを残し自己効力感を持たせる 学級や担任とのつながりを大切にする
アセスメントにつながる 自分に合わせる 自分で決める（自己決定→自己効力感）
- (6) 校内SRの環境づくりの実践例の紹介
- (7) 今後に向けて

・質疑応答の概要

Q1 A市はオンライン（ZOOM）で支援しているが、メタバースとの違いはどのようなところか。

- A1 メタバースの場合は、複数の参加者が一斉にコミュニケーションをとることができることに優位性がある。
- Q2 学習テーマについて、学年差をどのように埋めているのか。
- A2 発達段階に違いがあるが、子どもたちの興味関心が高い分野で、行動に直結しやすい教科横断型の学習を取り入れることで、幅広い学年に対応できるようにしている。
- Q3 B市もメタバースに2学期から取り組むが、学校との連携はどのようにしているのか。
- A4 在籍校と共通のフォルダを作成し、参加状況や保護者の連絡内容も共有できるようにしている。
- Q4 メタバースの取組は、次年度はどうするのか。
- A4 次年度も継続し取り組む。
- Q5 週1回の取組であるが、主事や行政の役割はどうか。
- A5 開講日に、担当主事が授業の様子を観察しており、気になることがあれば在籍校や委託している業者と連携している。

